

10. 次年度の取り組みの方向性

10. 次年度の取り組みの方向性

(1) 次年度実証事業の目標と内容

	実証項目	地域の現状	実証事業の目標	当年度の実証内容
全体	グリーンスローモビリティの価値を地域住民と共に考え、共有を図り、一定期間の実証実験を実施し、そのニーズと価値を検証するとともに、この実証実験を通じ、地域全体でCO2削減への意識向上を図る。	平成26年度より大阪府、関西大学と連携し実施する「南花台スマートエイジング・シティ」団地再生モデル事業により、住民主体の地域包括ケアの仕組み構築を図るとともに、廃校跡地に看護学校を誘致し、現在はUR団地の集約に着手しており、地域のまちづくり機運が高まっている	まちづくり機運の高まりを活かし、地域全体で作り上げるグリーンスローモビリティの価値を共有するとともに、地域住民のCO2削減に向けた意識向上を図り、グリーンスローモビリティの価値をさらに高める。	地域住民のQOL向上に向け、グリーンスローモビリティが地域住民の生活にどのように影響を与えるのかを十分に検証し、生活に機能する走行方法、運営方法の検討を行うとともに、その効果性を高めるIoTを開発する。
1	グリーンスローモビリティへの理解の向上と事業啓発	現在、地域住民主体で買い物支援に取り組んでおり、高齢化が進む中で、住民移送に関するニーズの高まりを把握している。 ●約73%の住民が地域内で食料品を購入している(関西大学住民意識調査より)	本事業を実施する価値を地域で共有し、地域全体で取り組むべき活動として、積極的な地域住民の参画を図る。 【目標】 取組みに賛同し、運営に関わる住民の数:70名(※) ※10名の上方修正	・グリーンスローモビリティの価値を考える地域ワークショップによる機運向上 ・ポスター・チラシ等による事業啓発・情報共有
2	グリーンスローモビリティの実走を通じたニーズの検証	丘の上に開発された団地であることから坂が多く家用車に依存している状況、その為地域内の移動にも不便を感じている住民が多い。 ●地域外へ移転したいと答えた方の内の約52%が病院・買い物の移動に不便を感じるからと回答(関西大学住民意識調査より)	地域のニーズをあらゆる視点で検証し、正確に把握し、そのニーズにあった最適な運行方法を検討 【目標】 1日の乗降者数:80名	・運営手法見直し、運営体制再構築 ・実走 (9カ月 4月～12月) ・有償運送 ・ニーズ把握 ・効果検証 ・ニーズ分析 ・改善点の整理及び改善
3	グリーンスローモビリティの実走を通じたIoT開発	高齢者が多い地域でありながら約7割の高齢者がすでにスマートフォンを活用している。 ●地域住民の約75%がパソコン・スマートフォン・タブレット端末を利用(関西大学住民意識調査より)	グリーンスローモビリティの利便性の向上と運行負担の軽減を図ることに寄与するIoT開発 【目標】 利用者の満足度:90%	・システム改修 ・実装を通じた課題検証 ・改善点整理・改善
4	CO2削減に向けた、調査・啓発	ゴミの分別等、環境への配慮は比較的意識が高いが、地域内の買い物や通院には家用車を利用している割合が非常に高いと推測される	普段の生活の中からCO2の削減に取り組む意識を高めることによりグリーンスローモビリティの価値向上を図る。 【目標】 以前よりCO2削減への意識が高まった住民の割合:30%	・アンケート調査:現状把握 ・南花台地域住民への取組み周知 ・社会実験のPR広告 ・特別講演会 ・アンケート調査:実施中・実験後 ・年度取りまとめ